

座談会で見えた  
「美又信用購買販売組合(旧農協)」  
の魅力を後世へ

島根県立大学地域政策学部 地域づくりコース

3年 恩田千奈

# 目次

- ・ 美又地区、美又共存同栄ハウスの概要
- ・ プロジェクトの目的
- ・ 座談会について
- ・ 座談会の結果（農協時代の思い出、今後の期待・想い）
- ・ 座談会を行った感想、大変だったこと
- ・ 美又共存同栄BOOKについて
- ・ プロジェクトを通して学んだこと
- ・ 今後の展望

# 美又地区、美又共存同栄ハウスの概要

## 美又地区について

- 浜田市金城町の北部に位置し、江津市に隣接する。
- 1864年に発見され、150年以上続く美又温泉は、美肌効果が期待できるメタケイ酸を豊富に含み、とろりとした肌触りで美肌の湯・美人の湯として有名である。
- 美又温泉は、2024年温泉総選挙の美肌部門で、全国1位に輝いている。



# 美又地区、美又共存同栄ハウスの概要

## 美又共存同栄ハウスについて

- ・ 1937（昭和12）年に建築した美又信用購買販売組合（旧農協）を、クラウドファンディングによってリノベーションした建物。
- ・ 建物正面に掲げられた「共存同栄」は、助け合いながらともに繁栄していこうという理念が込められている。
- ・ 「仲間と楽しみ、共に食事を作り、寝る直前まで話し合うことで、コトが起きる」共存同栄な場所を目指している。
- ・ 宿泊スペースや広々キッチンもあるので、様々な用途で使用できる。



# プロジェクトの目的

- ・ 「美又信用購買販売組合（旧農協）」時代の思い出を記録し、継承する
  - 建物が地域の人にとってどのような存在だったのかを残し、リノベーション後もその価値を伝えるため。
- ・ 地域の人々の期待を可視化することで、新たな活用のヒントを得る
  - 「共存同栄ハウス」に対する期待や想いを聞くことで、より地域に根差した活用方法を考えるため。
- ・ 地域のつながりを強める
  - 座談会を通じて、地域の人々が共通の思い出を語り合い、「共存同栄ハウス」への愛着を持ってもらうため。

# 座談会について

## インタビュー概要

場所：

座談会参加者：建物の近くに住んでいた人や、農協時代に勤務経験がある人などの計6名

インタビュー内容：農協時代の思い出、今後の期待・想い

## 座談会後

文字おこし、執筆

# 座談会の結果

## 農協時代の思い出

- 販売と購買で木炭やお米の検査・管理をしていた。食料品や雑貨も売っており、金城地区の中で最初に有線も導入された。
- 頼母氏（たのもし）で利用していた。その時は魚を後ろの宿直室に運んでいた。皆で食べるご飯は美味しかった。
- 2階の講堂で皆で踊ったり出し物をしたりしていた。音頭や着物を着て各町内が発表するのでにぎやかだった。
- 講堂で映画会があり、履物は新聞紙に包んで持って上がっていた。建物は地域のデパート的存在であった。
- 倉庫にお米が沢山あり、皆に配給していた。お米がない時は小麦粉、砂糖などを配給していた。
- 床の工事の際に、1階の店舗を2階に移動して半年近く買い物をしてもらったことがあった。量り売りの物は足りなくなって上司に叱られることもあった。 7

# 座談会の結果

## 今後の期待・想い

- ・ 建物を拠点に、皆が集う場所になってほしい。地域内は何をするにしても人数が知れているので、外からも来てくれたら嬉しい。
- ・ 何かイベントがあったら参加してみたい。美又のことを知り、良いなと言ってもらえると嬉しいと感じる。
- ・ 地域住民に宿泊スペースの見学を行えば、何かいい話が出るかもしれない。最初のうちはワイワイした方が良くと思う。
- ・ 賑やかになってくればそれで良い。
- ・ 直しても閑古鳥が鳴いているようでは大変だと思うので、いる人が何かしようとグループを作り、何か行うことで次第に人も集まると思う。若い人にも参加してもらいたい。
- ・ 皆が元気でいればそれが一番良い。発展を願っている。



# 座談会を行った感想

- 予定よりも長く、1時間半に及ぶ座談会だったが、6人全員がとても楽しそうに話されており、旧農協の建物は本当に地域から愛されていたということが分かった。
- 定期的にイベントが開かれたり買い物ができたりなど、地域の中心的存在だったということが分かった。
- 昔のことを知らない私にとっては全てが新鮮で、時々イメージを膨らませながら座談会に参加していた。
- 写真を持ち寄ってくださった方や、資料で下調べをして下さった方もおられ、より思い出を詳細に伝えようとしてくださっていることが嬉しかった。

# 座談会で大変だったこと

- 人によって話す割合がなかなか同じにならなかった。
- 方言が強く、時々何を話されているのか分からず、聞き取ることに苦戦した
- 本来の話と逸れることもあり、修正が難しかった。
- 方言で聞き取りづらい箇所があった影響で、文字おこしに苦戦した。1時間半分の文字おこしはWord12ページにも及んだ。

な、ここにのつとらんげえな。\*

②でその時に、えっと岡本さんが助めていらっしやった?\*

(岡本2) いや私はもう…\*

②その有線であつておられたんですよね。\*

(岡本2) あそこはね2年ぐらいいか働いてない。そのうちね、あの児童館になったからね、それで辞めたんですよ。\*

○ 森川はつえさんもちよっと●●●●だった。あれやら篠原さんやら。田中みちこさんもどうやらという話だった。\*

(岡本) もう亡くなつとるけど田中くはえさんとかな。\*

○ それからさっきの小野寺さん健四郎さんがおんさつた。\*

(岡本) 入江の●●はるえさんもおんさつた。\*

②なるほど。有線のお仕事って、どんな感じのお仕事なんですかね。(7分)\*

○ あの向こうがね、どこぞ呼んでくださいて言われたらね、あのおうちに番号があるのね、それを何番何番って呼んで呼び出したらね、出られるし。それからあの祭りとか、集金常会とかもうあらゆる皆にあのすごくしなやいけいなミラー放送をするわけですよ。何々の町内会をあの、あの集金常会がいつですとかね。あの頃には今少ないけどね、あの頃には一切みたいなあの放送文があつたんですよ。\*

(岡本) あのね、33年の6月に竣工して、その時にこの美又地区の下流引越す204。それでうちの183個が●●●●●。それでね、あのそれができるようになったんですよ。そういう従業員?はね、まあそこへ書いてあるんですよ、233万円。それでね、組合員が70万を出して、農協負担が533万円、各個人負担が60万円。この60万というのは200何万のみんなを出した訳だ。これを足したら233万なる。ここにあの書いてある、ということですね。これがね、今で言うところ今福、ふくざわ?雲城、おむに、波佐と似たようなのがね、2年くらいあつた。それがいつまでこれがあつたかは分からん。\*

あのこういう町史見ればのつとるかも知らん。そこまで調べたらんのだ。これは美又の町史の分だけえ。ほとんどこれにのつとるな。\*

○ 40年頃●●●●●売電所も持ったつたつたえ…\*

(岡本) 売電所はね、つとるんなこれ。ここも農業自体がやつたつたえ。\*

○ その売電所はかもしの分。そうそう。\*

(岡本) だけえお金が入りよったわ。美又の●●●●●お金が入つた。今もやつとるけえな。●●●●●。(9分46)\*

○ それからダメもね、砂がいっぱい溜まつとるけえね、○分かんないな。\*

②じゃあ、あと皆さんの思い出、皆さんが一番あの建物とかJA、まあまあ農協でなんとなく一番この建物に関して思い出に残っていることを、お1人ずつ教えていただきたいと思っておりますので、宮本さんからお聞いできますか?\*

(宮本) あの昔ね、なんかしょうえいのたのもし●●●ですよ。今は越田さんが入つとられ

実際の文字おこし ↑

# 美又共存同栄BOOKについて

執筆したものは「共存同栄BOOK」として製本化。



実際に、クラウドファンディングの返礼品の一つとして配布している。



# プロジェクトを通して学んだこと

- 建物は単なる物理的な空間ではなく、地域の人の思い出や歴史が詰まっている。
- リノベーションは、新しい価値や可能性を生み出すチャンスになる。
- 言葉を記録・整理することは難しいが、貴重なエピソードを継承するためにとっても重要である。





# 今後の展望

## 座談会内容の継承

→座談会で見た建物の歴史や思い出などを記した「共存同栄BOOK」をより多くの人に購読してもらい、継承していくこと。

## 美又共存同栄ハウスの利用者促進

→生まれ変わった建物の利用を、SNSやインターネット、チラシなどの様々な媒体で促すこと。

(例) 実際に『美又「共存同栄」だより』という広報誌を、季節ごとに美又地区に全戸配布している。

第6号 | 2024年3月

### 美又「共存同栄」だより



美又「共存同栄」だよりとは

島根県立大学地域政策学部(浜田キャンパス)の学生が取材と執筆、デザインを担当します。発行元は、地域を学びながら記録、発信していく目的で設立した「ローカルスタディ研究所」(田中輝美所長)です。島根県浜田市会城町美又地区にある旧農協の建物「農協さん」(旧美又信用購買販売組合事務所)を、ローカルジャーナリスト活動の拠点や地域に新たなつながりをもたらす「共存同栄」のシンボルに生まれ変わらせる美又プロジェクトの様子をお伝えしていきます。

### 内覧会とオープニングイベントを開催しました!

3月16日、午前に地元の方に向けた内覧会、午後オープニングセレモニーを開催しました。午前からは島根県立大学の学生や地域の方々など多くの方が見学に訪れてくださいました。午後のセレモニーでは、地元追原社中の神楽演出もあり、会場は大盛り上がりでした!また、来場者の皆さんを子エキ撮影し、写真に建物でやりたいこと、してみたいことを皆さんに書いてもらう企画も実施しました。例えば、みんなで集まってお茶をしたい、読書会をしたい、結婚式の前撮りに使いたいなど、1人1人違った使い方がありました。1日の総数は、40人超え。1人1人とお話ししながらのひととき、とっても楽しかったです!

続いて3月17日から20日は、一般向けの見学会「オープンハウス」が開催されました。見学会では、島根県立大学の学生メンバーが1人1人丁寧にご案内しました。参加した方々には、それぞれの視点で建物を楽しんでもらいました。遠方から来られた方も多く、共存同栄ハウスはもちろん、追原の町並みも楽しんでいただくことができました。今後、地元の方も一緒になった、思い出づくりが楽しみです。(中野一天)



毎月発行してきた美又「共存同栄」だよりですが、工事が完了し一段落したこともあり、2024年度は、季刊での発行になります。引き続きのご愛読よろしくお願いたします!(田中輝美)

\\ウラもあります!

発行元: ローカルスタディ研究所  
連絡先: 島根県立大学 田中輝美研究室 (島根県浜田市野原町2433-2) 電話: 0855-24-2273 メール: ta-tanaka@u-hi-lmane.ac.jp